



## 澄んだ心でありのままを見つめて

今回みみタロウは、自閉症の子どもさんを育てておられる カナマル 畠中 アンジェラさん  
(甲賀市) にお話を伺いました。



25年前、ブラジルから来日し、再婚した夫との間に、男の子と女の子の双子の子どもに恵まれました。私には前の婚姻での子どもも三人おり、その一人は既に

大人ですが、軽い知的障害があるので一緒に暮らしています。7年間夫が単身赴任していたので、双子の育児は、両腕にだっこしたり前後ろにおんぶをしながら一人でこなしてきました。その子たちは2歳半の時、自閉症の診断を受け、今11歳です。

自閉症の症状はそれぞれ異なり、男の子は言葉を繰り返すことができますが、女の子の方は症状が重く、言葉を発することができません。毎日同じタイプの服を選んで40分ほどかけて着替えをし、入浴でも同じ順番で身体を洗うなど、自分の世界の秩序があります。そしてそれが乱されたりするとパニックを起こし、頭を打ち付けたり爪で自分を傷つけてしまいます。調子の良い時には、物を規則正しく並べることなどに集中したり、私に甘えたりします。

二人は毎日養護学校に通学していて、夫と私で送迎しています。また放課後のデイサービスにも週に2度通っています。障害児は、他の子ども達に迷惑をかけることがあるので遊べる場所が限られていて、デイサービスは彼らが遊べる貴重な機会となっています。その他、定期的に通院していますが、私たちは少しでも子どもたちの状態が良くなるよう様々な情報を収集し、更に専門的なケアにつなげたいと思っています。これから思春期になり、いろいろな問題も出てくるでしょうし、将来のことなど気がかりもありますが、これからも子ども達が良い状態で安心して過ごせることが、私たち夫婦の願いです。

私自身は、子どもたちが学校に行っている間、パートの仕事をし、時間があれば、地域などの日本語教室で勉強しています。家でもテレビを見て日本語を勉強していますが、娘は音に過敏なので、音を消して聴覚者障害向けの字幕を見て、わからない言葉があれば調べるのが私の勉強方法です。実は、子ども達の暮らしの安定のためにも日本国籍の取得を目指していて、そのためにも日本語の勉強を頑張っています。先日は、日本語能力試験にも挑戦してきましたよ。その他、クレヨン画も習っていて、私にとってとても楽しい時間になっています。いつか子ども達と一緒に絵を描ければ素敵ですね。

私のように障害のある子どもを抱えている人は少なくないと思います。そんな親にかけたい言葉は「子どものことだけを考えて」ということです。世間の目を気にしたり、重い事実を受け止められずにそこから逃げてしまうと、子どもへの支援につながらず、治療や教育が遅れてしまいます。ですから是非、澄んだ心で、ありのままを引き受ける勇氣を持ってほしいです。同様に、様々な困難を抱える人々にも同じ言葉を伝えたいです。最近SNSは、「観光地に行った」、「美味しいものを食べた」などの投稿で溢れ、そのような楽しい私生活を見せる風潮の裏で、実生活がますます見えにくくなっているように感じます。しかし実際には子どもや夫婦の問題、DVや生活困窮などの悩みを抱えている人も沢山おられ、そのような問題があるのに周りの目を気にして現実に向き合えなかったり、ビザのため、経済力がいないためにそこから抜け出せない人もいます。大切な人やあなた自身が前を向くためにも、是非現実にも勇氣を持って向き合い、必要ならば助けを求めてください。そして、困難を抱える人に声をかけ、手を差し伸べる人がもっと増え、温かい社会になるとうれしいです。

人生、いろいろあり、時にはつらいこともありましたが、その都度乗り越えてきました。これからも決してあきらめずに、前に向かって進んでいきたいです。